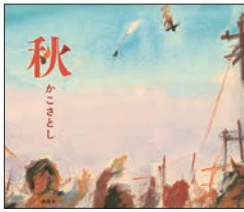




小学生[高学年]向け



『秋』

かこさとし／文・絵
講談社 ¥1,600(税別)

たくさんの絵本を生み出したかこさんが、高校生の時の自らの体験を描く。「病院にいても、戦争のさなかでも、秋はちゃんとやってきます。」戦争中の秋のことを忘れず平和であってほしいと願う、かこさんの思いを伝える一冊。



『風の神送れよ』

熊谷千世子／作 くまおり純／絵
小峰書店 ¥1,500(税別)

長野県南部、神坂田の宇野原地区の「コト八日」は、疫病を鎮めるために伝承されてきた行事。取り仕切るのは小学校3年生から中学校1年生の男女。様々な悩みを抱える子どもたちが、行事に参加する中で友情を育み成長していく姿を描く。



『黄色い夏の日』

高樓方子／著 木村彩子／画
福音館書店 ¥1,800(税別)

以前から気になっていた洋館を描く事にした中学生の景介は、洋館に住む老婦人に招かれ中に入る。そこで、可憐な少女ゆりあと出会い、心奪われていく。不思議な洋館で幻と現実の狭間の世界に溺れていく物語。



『ゴースト・ボーイズ ~ぼくが十二歳で死んだわけ~』

ジュエル・パーカー・ローズ／著 武富博子／訳
評論社 ¥1,500(税別)

12歳のジェロームは警官に撃たれて死んだ。物語を読み進めていくと、徐々に彼の死の真相が明らかになる。同時に、誰もが無意識のうちに持ちうる偏見や差別意識に気づかされる。主人公と同世代の今だからこそ読んで欲しい。



『日本庭園を楽しむ絵本』

大野八生／作
あすなろ書房 ¥1,400(税別)

日本庭園のことが、ほのぼのとしたタッチで細かく丁寧に描かれている。庭の知識だけではなく、日本人の自然や生活を大切に思う「心」、古より続く深い想いも伝わってくる。四季折々に親子で読んで、語りあいたい絵本。



『登り続ける、ということ。』

野口健／著
学研プラス ¥1,400(税別)

世の中には明るい部分と暗い部分がある。アルピニスト、野口健さんは暗い部分に焦点を当て、ヒマラヤでの学校設立、熊本地震の被災地支援、富士山清掃など前向きに取り組む。その活動内容と、続ける大切さや難しさが綴られている一冊。



『ぼくの弱虫をなおすには』

K・L・ゴーング／作 久保陽子／訳 早川世詩男／絵
徳間書店 ¥1,600(税別)

上級生からのいじめを恐れ、進級を拒否するゲイブリエルを強くしようと、「こわいものリスト」を作り一つずつ減らす作戦を、親友フリータが提案。クモ、地下室、フリータの兄、幽霊、上級生、親友への人種差別…怖いものは克服できるか？



『もしも動物と話せたら?』

ジェイン・ピッテル／文 ケルシー・バゼル／絵 松藤留美子／訳
今福道夫／監修 化学同人 ¥2,000(税別)

動物も人間と同じようにコミュニケーションをとっている。食料入手のためのダンス! 危険回避のために死んだふり! 生きるために必要なそれらのユニークなコミュニケーション方法を、個性的なイラストで楽しく解説した本。

その他のおすすめの本



『命の境界線』

今西乃子／著 浜田一男／写真 合同出版 ¥1,500(税別)

『崖の下の魔法使い』

吉野万理子／作 宮尾和孝／絵 学研プラス ¥1,400(税別)

『聞かせて、おじいちゃん』

横田明子／著 山田朗／監修 国社社 ¥1,500(税別)

『こどもサピエンス史』

ベント=エリック・エングホルム／著 ヨンナ・ビヨルシェーナ／絵 久山葉子／訳 NHK出版 ¥1,800(税別)

『災害伝承の大研究』

佐藤翔輔／監修 PHP研究所 ¥3,200(税別)

『サステナブル・ビーチ』

小手鞠るい／作 カシワイ／絵 さ・えら書房 ¥1,400(税別)

『真実を発見!科学捜査』

石澤不二雄／監修 誠文堂新光社 ¥2,500(税別)

『天の台所』

落合由佳／著 講談社 ¥1,400(税別)

『ぼくらのスクープ』

赤羽じゅんこ／著 講談社 ¥1,400(税別)

『屋根に上る』

かみやとしこ／作 かわいちはろ／絵 学研プラス ¥1,400(税別)

『わたしのあのこのわたし』

岩瀬成子／著 PHP研究所 ¥1,400(税別)

『わたしの気になるあの子』

朝比奈蓉子／作 水元さきの／絵 ポプラ社 ¥1,400(税別)